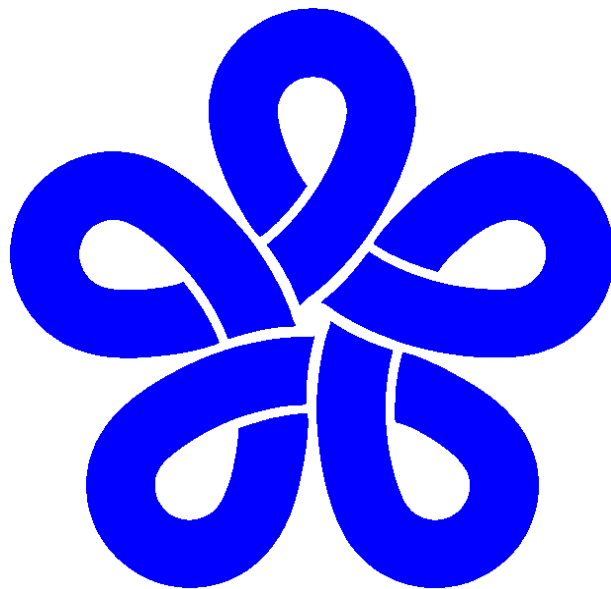


令和6年11月
福岡県議会エジプト・カイロ訪問団
報告書



令和6年11月2日~7日

福岡県議会

福岡県議会エジプト・カイロ訪問団について（報告）

1 趣旨

都市問題に関する包括的国際会議として最大かつ最高峰とされる国連ハビタット主催の「世界都市フォーラム」の第12回大会が2024年11月4日～8日の日程でエジプト・カイロにおいて開催され、国連ハビタットからの要請に基づき議長等からなる本県議会訪問団が参加したので、その概要を報告する。

2 訪問の目的

国連ハビタットは、ケニア・ナイロビに本部を置き、世界の都市化と居住問題に取り組む国連機関であり、福岡県では、1997年にアジア太平洋を統括する福岡本部がアクロス福岡に開設されて以来、財政支援や人的支援のほか、連携して海外派遣プログラム事業を実施するなど、様々な形でその活動を支援している。

そのような中、国連ハビタットが取り組む世界の生活環境の改善と福岡県及び福岡県議会が取り組んでいるワンヘルスが、その理念、目標や取組内容に共通点が多く、深く関わるものであることから、国連ハビタットはワンヘルスに関心を持ち、ワンヘルスを福岡県側との新たな連携分野とすることに意欲を示している。

このため、昨年4月に本県議会の代表訪問団がケニア・ナイロビの国連ハビタット本部を訪問し、意見交換を行った際にも、連携の機会として、世界都市フォーラムへの参加を要請されていた。

その後、正式に国連ハビタット本部から招聘状が届いたことから、同フォーラムを福岡県のワンヘルスの取組を世界に発信する場とする可能性や効果等を調査するとともに、本県が誘致を目指す「ワールド・ワンヘルス・ कांग्रेस2028」の開催に向け、大規模国際会議の運営に関する知見を得ることを目的として議長と国際会議誘致等に取り組む議員を代表して国際交流推進議員連盟会長を同フォーラムに派遣することが代表者会議で決定された。

3 訪問団の活動概要

カイロでは、在エジプト日本大使館の案内で世界都市フォーラムの開会式に出席したほか、環境問題に関する研究者や実務家、NGO組織等による発表や会場の様子等を視察し、併せて、会場の各所で世界的規模の大会運営に関する主催者や参加者の行動を観察する等の視察調査を行った。

また、国連ハビタット本部の幹部と面会し、福岡県とのワンヘルスに関する連携について意見交換を行うとともに、在エジプト日本大使館の臨時大使と、エジプトの地域の現状やイスラム圏との国際交流等のほか、本県のワンヘルスの取組などについて意見交換を行った。（行程ごとの活動概要は、下記5に記載のとおり。）

4 期間

令和6年11月2日(土)～7日(木)

5 訪問団

福岡県議会 議長 香原 勝司

福岡県国際交流推進議員連盟 会長 中尾 正幸

<議会事務局>

副理事 安武 弘光

総務課 秘書係長 松本 敦子

6 訪問日程、行程、活動の概要等

【11月2日(土)】

18時35分福岡空港発→20時15分羽田空港到着
22時55分羽田空港出発、ウィーンへ

【11月3日(日)】

6時00分ウィーン国際空港到着
11時40分ウィーン発→15時35分カイロ着
※欠航のためミュンヘン経由でカイロへ向かう便へ変更。
13時55分ウィーン国際空港発→14時55分ミュンヘン国際空港到着
19時30分ミュンヘン国際空港発→4日0時15分カイロ国際空港到着

【11月4日(月)】

第12回世界都市フォーラム・オープニングセレモニー出席

駐エジプト日本大使館の高田勝信臨時大使をはじめ大使館の方々の案内で第12回世界都市フォーラム・オープニングセレモニーに出席した。

本フォーラムは、国連ハビタット（本部：ナイロビ）主催の都市問題に関する世界最大の国際会議で、世界各国から行政関係者、専門家、企業等が参加し、持続可能な都市の実現に向けて幅広く議論を行っている。

また、本県では、ワンヘルスの専門的な国際会議である、「World One Health Congress」の福岡県開催に向けて誘致活動を行っており、本フォーラムにおいて、実際の大規模国際会議の運営方法や課題の調査も参加目的のひとつとしていた。実際、会場入りにあたって、電子機器等のトラブルで入場手続きに多大な時間を要し、長蛇の列ができるなど、多くの知見を得ることができた。



日本大使館の高田臨時大使(左から2人目)



会場全景(ハビタットHPより)

右下の建物がアリーナ、正面の建物は会議が実施されたホール



セキュリティ・チェックに多大の時間を要し、開会式が開催されたアリーナには長蛇の列



参加者で溢れかえったオープニング・セレモニー会場。2002年にナイロビで開催されて以来12回目となる今回の都市フォーラムには、過去最大の世界182か国、25,000人の行政関係者、専門家、実務家、NPO組織の活動家等とともに、アジア・アフリカ諸国を中心として元首を含め各国の大臣60人以上、副大臣50人以上、さらに自治体の首長も90人以上が参加。

在エジプト日本大使館との意見交換

世界都市フォーラムの視察の合間に、在エジプト日本大使館の高田勝信臨時大使をはじめとした大使館の方々から、エジプトの交通事情その他、この地域の現状やイスラム圏との国際交流に関するご説明をいただき、本訪問団からは、本県におけるワンヘルスの取組をご説明するなど、意見交換を行った。

【11月5日(火)】

国連ハビタット関係者との意見交換

本訪問団とは別に世界都市フォーラムに出席していた、藏内勇夫県議、国連ハビタット福岡本部の石垣和子本部長にも同席していただき、国連ハビタット本部のエルファン・アリ官房長と世界都市フォーラムの会場において、ワンヘルスの推進に関する連携等について意見交換を行った。

アリ官房長は、昨年8月の本県議会来訪の際に、ワンヘルスについて、「非常に独自性があり、革新的なコンセプトである。国連ハビタットの取組にワンヘルスの概念を取

り込み、一緒に推進をしたい。」という考えを述べられていた。

アリ官房長からは、アナクラウディア・ロスバッハ 本部事務局長が、主催者であるため非常に多忙であり、この意見交換に出席ができないことへの謝罪とともに、「福岡県のワンヘルスの活動を非常に評価しており、ハビタットとの連携強化を大変楽しみにしている。」とのロスバッハ事務局長からの言葉を代弁していただいた。

意見交換では、2026年に東京で世界獣医師会の大会が開催されること、同大会で藏内勇夫県議が世界獣医師会会長に就任されることを報告し、さらに、同大会でハビタットとの連携に関する提案があり、アリ官房長からは、「非常に良いニュースだ。2026年はハビタットにとってもニューアーバンアジェンダ（※）ができてから10周年の記念すべき重要な年である。ワンヘルスを国連関係者に取り込み、国連内でワンヘルス関連の決議などについて考え始めることができれば、将来的にワンヘルスの世界デーというものを作ることが可能かもしれない。そのためには、双方の強い関与が必要であり、例えば、我々はトルコ政府と協力して、ゼロ・ウェイストの構想に取り組み、今では『ゼロ・ウェイスト国際デー（毎年3/30）』を開催している。事務局長によるゼロ・ウェイストのグローバルな諮問委員会もある。これらの取組には時間と協力が必要だが、我々はワンヘルスについても喜んでコラボレーションしたい。」と本県と国連ハビタットとの連携強化に積極的な意見を述べられるなど、大変有意義な意見交換を行うことができた。



意見交換の様子



エルファン・アリ 官房長(左から3人目)
石垣和子 福岡本部長(左から2人目)

※ ニューアーバンアジェンダ

第3回国連人間居住会議(2016年エクアドル・キトで開催)において採択された、急速に進展する都市化を成長に結びつけることにより、幅広い人間居住に係る課題の解決に向けた国際的な取組方針。

第12回世界都市フォーラム

会場において実施されている膨大な数のプログラムの中から、特にワンヘルスの主要な関心事項である「都市が直面する気候変動による危機」をテーマとした会議に出席した。収容人数が1000人を超える大会場が満席で、この問題への関心の高さと国際会議で得られる知見への期待が実感できた。



ワンヘルスの理念と生物多様性条約等に関する講演



その後、23時頃に帰国のためカイロ国際空港へ向けてホテルを出発した。

【11月6日(水)】

- 1時45分カイロ国際空港発
- 5時25分フランクフルト空港到着
- 11時30分フランクフルト空港発

【11月7日(木)】

- 7時40分羽田空港到着 ※香原議長は別公務のため離団。
- 10時25分羽田空港発
- 12時25分福岡空港到着